

# 研究者の就業制度拡充に向けた出産育児支援 ニーズ調査結果

自治医科大学医師研究者キャリア支援センター  
2018 (平成 30) 年 8 月

## 研究者の就業制度拡充に向けた出産育児支援ニーズ調査について（お願い） (2018（平成30）年7月24日、センター長 小宮根真弓)

医師・研究者キャリア支援センターでは、次世代育成支援、就業継続支援・復職支援、育児支援及び地域医療従事医師支援を4つの柱として医師・研究者の支援を実施しております。

これまで、医師・研究者の支援としては、就業継続支援として医師の短時間勤務制度及び育児支援について一定の成果を上げているところですが、今回基礎系医学・総合教育部門の教職員（とりわけ研究に携わる職員）における出産育児支援等に関するニーズを把握し、今後2つの部門教職員の就業制度拡充に向けた検討に資することを目的に、上記アンケートを実施することと致しました。

つきましては、お忙しいところお手数をお掛けして誠に恐縮でございますが、後日配布いたしますアンケートにご回答（無記名）いただき、所属研究部の事務員の方へ**平成30年8月10日まで**にご提出いただきますようお願い申し上げます。当センターの今後の育児支援、就業支援のあり方を皆様方にとって更により良いものにする為に、アンケートへのご協力をお願いいたします。

## 研究者の就業制度拡充に向けた出産育児支援ニーズ調査結果

- 調査期間 : 2018（平成30）年7月24日- 8月10日  
調査方法 : メールにてご案内、紙ベースアンケート調査用紙配布、回収  
質問項目 : 16  
調査対象者 : 基礎系医学・総合教育部門に所属する全職員（博士研究員を含む）

# 研究者の就業制度拡充に向けた出産育児支援ニーズ調査結果

調査期間 : 2018年 (平成30) 7月24日- 8月10日  
 質問項目 : 25  
 調査対象者数 : 92 人  
 調査回答数 : 43人  
 有効回答率 : 46.7%

総数 (H30.2.1現在)			
職種	在籍人数	人	%
医師	1,007	117	11.6%
研究者	92	45	48.9%
医療技術職員	381	35	9.2%
看護師	1,354	1,109	81.9%
事務職員	359	169	47.0%
合計	3,193	1,475	46.1%

## Q1.性別、Q2. 年齢、Q3. 職位

性別		
	人	%
男性	39	90.7%
女性	4	9.3%
合計	43	100%

年齢		
	人	%
20歳代	1	2.3%
30歳代	18	41.9%
40歳代	16	37.2%
50歳代	6	14.0%
60歳代	2	4.7%
合計	43	100%

職位		
	人	%
助教	14	32.6%
講師	21	48.8%
准教授	4	9.3%
教授	4	9.3%
合計	43	100%

## Q4. 同居のご家族、Q5. お子さんの有無

同居のご家族		
	人	%
1人	15	34.9%
2人	10	23.3%
3人	9	20.9%
4人	7	16.3%
5人	2	4.7%
合計	43	100%

お子さんの有・無		
	人	%
1人	9	20.9%
2人	11	25.6%
3人	2	4.7%
無し	21	48.8%
合計	43	100%

## Q6. 現在出産育児支援を必要としていますか

	人	%
必要	5	<b>11.6%</b>
不要	36	83.7%
未回答	2	4.7%
合計	43	100%

Q7. 本学では、就業継続に関する支援制度といたしまして、以下のような制度があります。ご存知の制度すべてに○をして下さい。

	人	延べ総数に対する%
育児休暇	35	30.7%
育児短時間制度★	18	15.8%
介護休暇	22	19.3%
日中一時保育	12	10.5%
病時保育	8	7.0%
夜間保育	10	8.8%
ホームヘルプ	3	2.6%
相談業務	6	5.3%
合計	114	100%

※複数回答により延べ総数に対する%

本学の就業支援体制について知っている回答者はかなり少なかった。特に「病児保育」「夜間保育」「ホームヘルプ」「相談業務」は10%以下であった。

## Q8. 仕事と家庭の両立の為に、さらなる支援の必要性について

	人	%
とても必要	13	<b>30.2%</b>
どちらかという必要	13	<b>30.2%</b>
どちらでもない	12	27.9%
あまり必要ではない	2	4.7%
必要ではない	3	7.0%
合計	43	100%

結果：支援の必要性が「必要」「どちらかという必要」を合わせると**60.4%**であった。



Q9. 現在、大学全職員対象に厚生労働省で定められた育児短時間制度を子が3歳になるまで利用できますが、子の対象年齢が延長できるとしたら、何歳までを希望しますか。或いは、何歳まで延長しても良いと考えますか？

	人	%
小学校就学前まで	21	<b>48.8%</b>
小学校3学年終了まで	14	<b>32.6%</b>
必要ない	3	7.0%
その他	3	7.0%
未回答	2	4.7%
合計	43	100%

結果：育児短時間制度を就学前までと回答したものは48.8%、小学校3年生までと回答したものは32.6%であった。

Q10. 医師または歯科医師の免許を有する教員、病院助教、及びレジデント対象には、本学の特例措置である週20時間の「時短勤務」が小学校3年生までの子を養育する者であれば、男女問わず、受けることができます。この「時短勤務」は定数外となっています。本学研究者に対しても、このような制度が必要であるか、お伺いします。

	人	%
必要	33	<b>76.7%</b>
必要ない	5	11.6%
未回答	5	11.6%
合計	43	100%

結果：20時間時短勤務が必要と回答したものは76.7%と要望高かった。

## Q11. 子の年齢が、どの位まで短時間勤務が必要と考えますか？

	人	%
必要ない	0	0.0%
3歳前まで	4	9.3%
小学校就学前まで	11	<b>25.6%</b>
小学校3学年終了	18	<b>41.9%</b>
その他	1	2.3%
未回答	9	20.9%
合計	43	100%

結果：時短勤務が必要な時期を「小学校就学前まで」と回答したものは25.6%、「小学校3年生まで」と回答したものは41.9%であった。

Q12. 必要ないと回答されたその理由についてご記入ください。

- ①時短勤務より完全フレックス制が望ましい（診療業務が無いので）。
- ②研究が進まないため。
- ③研究者の仕事上勤務時間が短くなると実験、研究活動が困難になるため、時短よりも技術補佐員を雇うための研究費を補助する制度が必要と考える。勤務時間を大幅に超過せずに、出産前と同様のactivityを維持できるような制度が必要ではないか。

## Q13. 他大学や企業に採用されている制度として次のようなものが挙げられます。現在の職場に期待する制度はどれですか？

	人	延べ総数に対する%		人	延べ総数に対する%
保育支援に関して	53	22.6%	シッター料金補助	17	7.3%
			授乳・搾乳室の設置	11	4.7%
			学内保育園	25	10.7%
研究支援に関して	68	29.1%	研究補助員の雇用	22	9.4%
			在宅研究支援	16	6.8%
			研究助成募集情報提供	8	3.4%
			研究助成金	22	9.4%
多様な働き方支援	71	30.3%	在宅勤務	14	6.0%
			短時間勤務制度	12	5.1%
			フレックスタイム制	26	11.1%
			早出・遅出勤務制度	19	8.1%
職場環境改善支援	42	17.9%	教職員の意識改革	20	8.5%
			業務の効率化や合理化	14	6.0%
			ワークシェアリング	8	3.4%
合計	234	100%		234	100%
※複数回答により延べ総数に対する%					

職場に期待する支援で高かったものは「多様な働き方支援」であった。要望の高かった制度は、フレックスタイム制、学内保育園、研究補助員の雇用、研究助成金、教職員の意識改革、早出・遅出勤務制度の順であった。

## Q14. 上記以外に希望する制度、支援の形態にはどのようなものがありますか？

①非正規職員（ポスドク、学振ポスドク、研究補助員）も大学にとって大切な人材である。非正規職員も正規職員と同様

②私は過去**15**年間、特に自治医大にきてから7年あまり実家（北海道）の母の看護、介護つきそいのためため、1～2回/月通いました。自分の仕事にもしわよせが来ましたが、キャリア形成において親の介護はあまり考慮されていないのが残念です。

③若手育児支援助成金というようなものを作って、研究補助員の雇用に使えとよいのでは。（大学独自のお金が難しいのであれば、何か外部支援プログラムに大学として申請してみてもどうか。）

④論文英文校正支援、夕方以降の必須講義時の保育支援など→キャリアアップ支援

⑤Q13の内容はすでに多くの大学で開始されている制度であるため、本学も早く取り入れるべきではないか。

## Q15. お子さんがいらっしゃる研究者に伺います。

本学で行っている出産・育児支援に関する支援制度の、利用状況についてお伺いします。利用したことのある制度は、どれですか？今後利用したい制度は、どれですか？

## 利用したことのある制度

	人	延べ総数に対する%
育児休暇	1	10.0%
育児短時間制度	1	10.0%
介護休暇	2	20.0%
日中一時保育	3	30.0%
病時保育	2	20.0%
夜間保育	1	10.0%
ホームヘルプ	0	0.0%
キャリア相談業務	0	0.0%
合計	10	100%

※複数回答により延べ総数に対する%

## 今後利用したい制度

	人	延べ総数に対する%
育児休暇	3	9.7%
育児短時間制度	4	12.9%
介護休暇	5	16.1%
日中一時保育	6	19.4%
病時保育	7	22.6%
夜間保育	2	6.5%
ホームヘルプ	2	6.5%
キャリア相談業務	2	6.5%
合計	31	100%

※複数回答により延べ総数に対する%

利用したい制度が多かったものは病児保育、日中一時保育、介護休暇、育児短時間制度の順であった。

## Q16.本学で行っていない出産・育児支援制度で他に要望するものは、 ありますか？

- ①家族（特に離れて住んでいる親）の看護、介護に対する支援を希望します。
- ②生後2ヶ月からの預かり（待機児童でどこも預けられなかったため。あいりすは3ヶ月以降）・土日保育。



その他何かご意見ご要望があれば、ご記入ください。

- ①どのような制度があるのか、十分理解していなかった。一覧できる資料が配布されると良いと思う。
- ②免許の有無を問うのは医師・研究者だけですか？他にも臨床検査や獣医師なども居ると思うのですが。
- ③性別、年齢、職位を答えると個人が特定できてしまいアンケートに答えにくくなる
- ④本学には地域医療も含めて様々な支援があると思いますが、大学全体として情報がバラバラで新しく来た方々への情報提供が非常に不親切に感じます。新しい保育園も出来ることですし、キャリアセンターからの統合的な情報発信を期待します。**Website**にもっと活躍している自治医大の方々を紹介して欲しいです（医師・研究者も含めて）。保育園開園と同時に**Website**の大幅リニューアルを行って、多くの方々に自治医大の支援の良いところ、目指していること、今後のアクションプラン等をアピールして欲しいです。働きやすい自治医大のはずです。

## その他何かご意見ご要望があれば、ご記入ください

⑤研究者は仕事を休みたいとは思はないのでは？（代わりはいないので）そのかわりに配偶者との時間調整によって働きやすいときに研究できれば（フレックス）利用しやすいのではないか。

⑥「早出・遅出」について・・・勤務時間は8時間以上だが朝8：30に間に合わない為時短にしていた。しかし、自分より遅く来る職員が沢山いるのにその人達は時短ではないので事務にかけあってフルタイムとしてもらったが「なるべく8：30に来るように」と言われた。これは全職員に同じ事を言うか、裁量労働制にするしかないとおかしいのでは？。

キャリアアップ支援がほしい。Q10 について補足家庭の事情に応じて選択肢があってもよいのでは。1歳までの場合にも定数外になってしまうかは疑問。研究者で定数外になるともどる場所がないのも問題。